

和光市次世代育成支援行動計画 (前期計画の概要)

<基本理念・将来像>

子どもと大人の笑顔かがやくまち・和光
～子どもと親のウェルビーイングの促進～

<基本方針>

- 1 子どもの自立支援
- 2 子育てを応援する社会づくり
- 3 母子保健・医療サービスの充実
- 4 子ども家庭への支援の充実
- 5 子ども・子育てに配慮したまち

<重点的に取り組む施策・事業>

1 次代の親の育成

- ・ “子育ては楽しい”を積極的に広報・啓発します。
- ・ 子ども・子育てに関わる中高生ボランティアを育成し、活動機会の提供など活動を支援します。
- ・ 子どもの職業意識を育成するために、小中学生の職業学習・体験を充実します。

2 地域に中高生の居場所づくり

- ・ 福祉ボランティア活動、地域コミュニティ活動などへ中高生等の参画を促進します。
- ・ 中高生等が利用しやすいよう公共施設の有効利用・活用できるよう努めます。
- ・ 中高生等の居場所、活動拠点の整備を目指します。

3 子育てコミュニティの活性化

- ・ 地域で同世代・異世代が交流する機会を拡充します。
- ・ 子ども・子育てにかかわる地域活動へ、父親など男性の参加を促進します。
- ・ ファミリー・サポート・センターの活動を充実します。

4 男性も含めた働き方の見直し

- ・ 男性の育児休業取得者の交流機会の提供など、“パパネット”の構築を支援します。
- ・ 次世代育成支援に取り組む市内企業や企業内グループを紹介・PRなど、活動を支援します。

5 総合施設の整備

- ・ (仮)こども総合施設を整備します。

<各分野における課題>

1 子どもの自立支援

1 - 1 子どもの権利擁護

児童や家庭を取り巻く問題に対応できる児童家庭相談体制の整備、子どもの人権を守るしくみづくりとともに、子ども自身も社会の構成員としての意識をもち、責任ある存在となるよう子どもが参画する社会づくり、児童虐待防止対策の充実など、子どもの権利擁護の取組が課題です。

1 - 2 生きる力の育成

子どもの生きる力を育成するために、基礎学力、自ら考える力や学ぶ意欲などを身につけられるよう個に応じた指導を充実するとともに、正義感や社会性、自立心や仲間意識を育てるために、多様な学習・体験の機会、のびのびと遊び・活動できる場の提供などが求められています。

2 子育てを応援する社会づくり

2 - 1 子ども・子育てへの関心の喚起

子育てを社会あげて応援する必要性の啓発など、社会全体の関心を喚起するとともに、男女がともに子育てしながら仕事や社会参加を継続することについて理解を促進します。特に、子どもや子育てについて若い世代の関心を喚起する取組を進めます。

2 - 2 地域での子育て応援体制

保護者同士の交流と子どもを包む地域コミュニティづくりを促進するとともに、地域の子育て支援体制の整備、良好な地域環境の整備など、安心して子育てできるよう地域の応援体制づくりが課題です。

3 母子保健・医療サービスの充実

3 - 1 母子の健康の確保

心身の変化が著しい時期である妊娠・出産期において、女性の心身の健康を保持し、安心して妊娠、出産できる安全で快適な環境を確保することが必要です。また、乳幼児期は、疾病の予防、早期発見などによる健やかな成長・発達支援が求められています。疾病の早期発見・治療など、安心して子育てできるよう医療機関との連携に努めます。

3 - 2 思春期保健対策の推進

心の健康づくり、性・性感染症の正しい知識の普及を防止する教育の充実など、思春期における心身の健康づくり支援が課題です。

4 子ども家庭への支援の充実

4 - 1 家庭での養育・教育支援

子どもの養育や教育についての知識・情報の収集、日常の身近なことから専門的なことまで相談できる体制の充実、経済的な負担の軽減が求められています。

4 - 2 子育てと社会参加の両立支援

子どもと向き合い、子育てを楽しむ余裕ある家庭づくりのために、保育サービスを種類・量・質ともに充実すること、子育て世代の学習機会の充実、仕事と子育ての両立支援など、子育てと社会参加の両立支援が求められています。

4 - 3 要保護児童等への支援の充実

ひとり親世帯の自立支援、子育て支援をより一層推進していく必要があります。

また、「第二次和光市障害者計画 チャレンジドプラン～共に生きるまち和光～」にそって、チャレンジド（障がいのある子ども）施策を充実することが課題です。

5 子ども・子育てに配慮したまち

5 - 1 子育てにやさしいまちづくり

安心して子どもを連れて外出・社会参加ができるよう環境の整備を進めます。

5 - 2 安全・安心なまち

子どもが安全に暮らせる環境整備が求められています。

<和光市の子ども・子育ての現状>

人口の推移

1 総人口は増加傾向

本市の平成16年の住民基本台帳と外国人登録を合わせた人口は71,653人です。昭和60年からの推移をみると、一貫して増加傾向が続いています。

2 児童人口も増加傾向

平成7年からの推移をみると、小学生までの人口は増加傾向で、中学生以上は減少傾向です。

3 少子高齢化の進展

平成7年からの推移をみると、年少人口比と生産年齢人口比はゆるやかに低下し、老年人口比は上昇しています。全国平均と較べると、老年人口比が低くその分、年少人口比と生産年齢人口比が高くなっています。

4 出生数、合計特殊出生率とも低下傾向

平成6年からの推移をみると、出生数は、年毎に多少の増減があり、徐々に増加傾向であったのが、平成10年以降は900人前後で横ばい状況となり、平成14年には減少となっています。合計特殊出生率は、平成13年は全国を大きく上回っていたが、平成14年にはほぼ全国と同じです。

5 婚姻率・離婚率とも上昇傾向

昭和62年からの推移をみると、婚姻率は上昇傾向にあったのが、平成4年に減少し、その後また上昇傾向となっていたが、平成6年をピークに減少傾向が続いています。

離婚率は、年毎の多少の上下があるものの、傾向としては上昇傾向です。

6 平均初婚年齢の上昇傾向

男女ともに上昇傾向です。

7 出産年齢の上昇傾向

平成14年の母親の年齢階級別出生割合は、「30～34歳」がもっとも高く、推移をみると、出産年齢の中心が「25～29歳」から「30～34歳」へシフトしている状況が伺われます。

家族や地域の状況

1 18歳未満の児童のいる世帯数の減少と平均世帯人員の減少

昭和60年からの推移をみると、一般世帯数は増加傾向ですが、18歳未満の児童のいる世帯数、平均世帯人員とも減少傾向が続いています。

また、18歳未満の児童数、1世帯あたり子ども数のいずれも減少しています。

2 単独世帯の割合が増加

昭和60年からの推移をみると、単独世帯の割合が上昇し、3世代世帯、核家族世帯の割合が低下しています。なお、前期計画策定に係るアンケート調査の回答世帯の8割以上が、核家族世帯です。また第1子の割合が3割を超えます。

3 就労状況

・ 就業率は男性6割強、女性4割強

昭和60年からの推移をみると、男性は減少傾向で、女性は上昇傾向です。

・ 女性の年齢別労働力率が上昇傾向

女性の年齢別労働力率をみると、平成12年では、子育て期間の35～39歳に落ち込み、40～44歳からゆるやかに上昇し、50～54歳をピークに再び下降していくM字カーブを描いています。

全国と較べて、本市は子育て期間以降、女性の労働力率が10ポイント前後低くなっています。

4 地域の特性

・ 昼夜間人口比率は、上昇傾向

昭和60年以降、常住人口、昼間人口とも増加傾向にあります。男女別の昼間人口率の推移をみても、平成7年以降、男女とも昼間人口率は上昇に転じています

・ 市外への就業・就学が7割弱

平成12年に本市に住んでいる就業・就学のうち、市内での就業・就学者は31.9%で、市外へは68.1%で、市外へ主な通勤・通学先は板橋区へ8.6%、新宿区へ6.1%、千代田区へ5.9%、豊島区へ5.3%などです。

子育ての実態と次世代育成についての市民の意向

・ 7割を超える保護者が、和光市は子育てしやすいまちとしている

・ 保護者は、子どもがのびのびと遊べる場所づくりを一番に希望

・ 就労予定層では理想の子ども数がわずかに高くなっている

・ 少子化の流れを変えるには、子育てを男女が協働で行える社会づくりが必要